

事例名

文章読解を深める学習

校種・学年

高等学校・2年

教科・科目・単元・題材

国語科・論理国語・「疑似群衆の時代」(港千尋)

学校名<任意>

京都府立綾部高等学校

事例報告者氏名<任意>

今田 健登

機能名(アプリ名)

ロイロノート

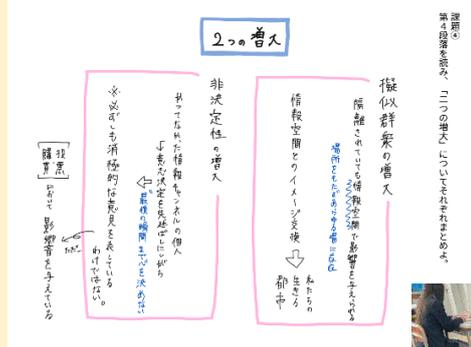
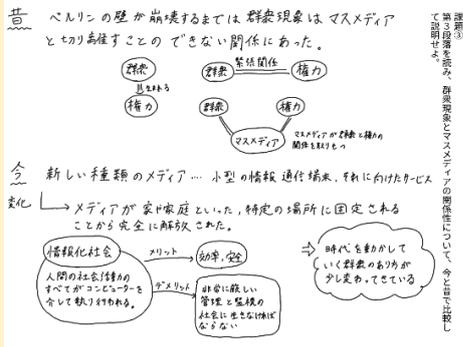
ICT活用のポイント

文章読解において重要となる点を発問として提示し、学習のポイントを示す。学習者は提示された発問の答えとなる箇所を教科書から読み取り、ロイロノートで文章やイラスト、図式、表に整理する。

ICTの活用により、学習者自身が必要に応じて方法や手段を選択することが可能となり、好奇心を起点とした深い読解を行うことができるようになる。また、学習者それぞれの長所が活かされる余地によって読解に対する主体性や意欲が高められるとともに、円滑な交流活動によって多様な考え方の受容を実現できる。

活用場面

- ①ロイロノートのアプリで学習のポイントを示す。
- ②教科書本文を読み、発問の答えとなる箇所を整理する。



- ③ペアワークでまとめた内容を口頭で説明し、理解を深める。
- ④提出箱を活用してクラスの生徒と共有できるようにし、理解をさらに深める。



授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

論理的な文章に向き合うことは、国語に対して苦手意識を持つ生徒にとって難しいことであるが、生徒の長所や個性を活かした学習方法によって学級全体として意欲的に取り組む姿が見受けられた。文章を整理することによって考えをまとめ、さらに口頭で説明することによって自身の理解度を確認することができた。

整理の方法が学習者に委ねられることによって、楽しみながら深い理解に向かうことができるようになった。また成果物を交流することによって、多様な整理方法を知り考え方を広げることもできるようになった。